

移住者と地域が共生している事例

川崎市 多摩区 団体・法人への中間支援
(一社)多摩区ソーシャルデザインセンター(多摩SDC)



学生カフェ

多摩SDCの学生カフェは、2020年7月に学生が定期的集まろうと考え、毎週金曜日に集まり始めました。当初は簡単な打ち合わせをしようと思いましたが、知識を得たり、地域の人と交流したりする機会が増えているうちに若者の居場所と言われるようになっていました。ここに来れば「居場所がある」「仲間に出会える」「新たな出会い」があるなど、地域の交流拠点(コミュニティ)になっています。

そしてここに集まる学生・若者が地域の助け合い活動の担い手になっています。



自己紹介

ライフライン(人生曲線)を使って、自分を知らしてもらいます。



打合せ

打合せをチームに分かれて行います。学生カフェ以外にも集まっています。



試行錯誤

子育て支援の試行として学習支援を行いました。本年度もチャレンジします。



プレゼン

自分のしたいことを伝え、意見・感想をもらいます。(画像はかわプロの高校生がプレゼンをしています)



子ども食堂

月1回は子ども食堂を開催。多い時には60~80名/2時間て来られます。



教わる

川崎市出身の人に専門なお話を教わります。(画像はKDDIの海外事業とキャリアについて)



取材

取材を受けることも。この画像は川崎市からYouTubeでの取材を受けています。



調査

若者の居場所、子ども食堂などについて調査を受けることも少なくなっています。



負けない

コロナ禍でもオンラインを使って集まりました。継続は力なり!

2021年に地域紙に掲載

人物風土記

総力で新風吹き込む

伊藤 直人さん

多摩区ソーシャルデザインセンター(SDC)で今春から学生代表を務める

多摩区在住 20歳

SDCの活動を通して、地域とつながる楽しさや、自分自身で何かを成し遂げる達成感を実感しています。また、SDCの活動を通して、地域とつながる楽しさや、自分自身で何かを成し遂げる達成感を実感しています。

地域でも少し注目される

2022年に地域紙に掲載

人物風土記

視野広げ、多世代つなぐ

堀川 華那さん

多摩区ソーシャルデザインセンター(SDC)の学生代表に今年就任した

国立多摩高校出身 22歳

SDCの活動を通して、地域とつながる楽しさや、自分自身で何かを成し遂げる達成感を実感しています。

若者・学生が集まった要因

初めに小・中学校から地域に住んでいる大学生を中心に口コミで集めだしました。一定数集まり出してから、地元の大学の学生に声を掛けました。子ども食堂が人気で、携わりたい人が多く、定期的に説明会などを開き仲間を増やしています。現在、約40~50名のコアなスタッフと150名近いイベントのお手伝いをしてくれるメンバーがいます。